

381) 出逢い

久々に出逢った女は 前よりも美しかった
少女から大人になって どことなく色っぽくって
大空を翔くよう^{はばた}で 横顔が眩^{まぶ}しかったよ
偶然のいたずらが 歳月^{さいげつ}を巻き戻し
過ぎ去りし思い出に 新しい^ひ燈が点る

あのころは肩まであった 黒い髪ショートになって
デザインの仕事のほうも 順調にいってるみたい
タバコ吸うまっ白い手に マニキュアが輝いていた
思い出をたどるよに 揺れていた眼差しが
ちらちらと降りだした 窓の雪見つめてた

タクシーをやっとつかまえ 雪の中家路をいそぐ
何となく別れがたくて 立ち寄ったあいつの部屋は
狭いけどとても奇麗で コーヒーの香りがしてた
ひとつ部屋向き合って 沈黙が続くたび
一瞬^{きんちょう}の緊張が ぼくたちを横切った

床を這う寒さの中で ほろ酔いの夢から醒めた
暗闇に息をひそめて もどかしく愛がためらう
ぼくたちのあぶない恋が 冬空へ走り始めた
降りしきる雪の中 しんしんと夜は更けて
過去の日をまっ白に ぬりかえて明日が来る